

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 大学の理念である「行学一体・報恩感謝」の精神に則り、人間がこれまでの歴史のなかで築いてきた文化と歴史的遺産を探究し、人間と社会についての洞察を深めることで、人間性にあふれた社会を創造することをめざし、そのために高度な専門職業人および研究者の育成に努めている。宗教学仏教学専攻は、仏教学・禅学・宗教学の3分野の研究を通して人間性を涵養し、現代社会の心の問題に対応できる有為な人材、とくに宗門人の育成に努めている。歴史学専攻は日本史・東洋史・西洋史・イスラム圏史・考古学の5分野の研究を通して世界史的視野を磨き、教育界・文化機関等で貢献できる人材の育成に努めている。英語圏文化専攻は、英語英文学および学際的な地域研究を通して、教育界のみならず、グローバル化した社会で活躍できる国際的な職業人の育成に努めている。日本文化専攻では日本文化の学際的研究、東西文化との交流研究を通して、教育界・文化機関等で日本文化を世界各地に発信できる有為な人材の育成に努めている。以上のように、4専攻すべてにおいて、人材養成・教育研究上の目的やその内容を適切に定め、実施されている。 (2) 文学研究科の4専攻は、文学部5学科との連続性を保ちながら、教育・研究活動を行っている。学部5学科は大学の理念に則り、人間の生み出してきた様々な社会・文化を学び考察することを通して社会に貢献できる人材の育成を目的としている。文学研究科はこの目的をさらに発展させ、人間と社会についての洞察を深めながら人間性あふれた社会を創造することを目指す教育を推進している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学大学院教育理念・各種方針等「人材の養成・教育研究上の目的」『2023年度大学院要項』p.2、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
愛知学院大学大学院 教育理念・目的及び各研究科「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学研究科の4専攻の人材の養成・教育研究上の目的を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に規定しており、『大学院要項』に内容を明記している。また年度初めのオリエンテーション時に、研究科長・研究科主任が入学者に説明し、さらに各専攻においても専攻の理念・目的及び教育方針等を入学者に伝えている。また、社会一般に対しては、理念・目的を大学ホームページにおいて公開している。				
(2) 文学研究科の4専攻の人材の養成・教育研究上の目的を『大学院要項』、大学ホームページに掲載し、学内の教職員、学生、及び学外に対し周知を図っている。また大学院生が編集刊行している『文研会紀要』を全国の図書館・大学図書館などに配布し、本研究科の理念と実践を社会的に周知できるよう努めている。				

基準1. 理念・目的

組織名

文学研究科

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「人材の養成・教育研究上の目的」『2023年度大学院要項』p.2、<https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf>

愛知学院大学 各学部研究科の「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト <https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose2.pdf>

愛知学院大学大学院文学研究科文研会〔編〕『愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要』ISSN:13427806

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし、たうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号

長所・特色

なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号

課題・問題点

なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号

改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、
「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、
「C:重度な問題がある」から選択してください。

自己評価

A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 文学研究科では、大学の理念・目的の実現のため、宗教学仏教学、歴史学、英語圏文化、日本文化の各専攻2名から構成される自己点検・自己評価委員会を平成3年から設置している。委員会では専攻ごとに自己点検を実施して授業科目及び担当教員の見直しを行うとともに、教育理念・目的に沿ったシラバス記載を行っているか否かなどのチェックを実施している。2018年度には3つのポリシーを修正、2019年度には「自己点検・自己評価委員会規定」を明文化し、PDCAサイクルの活用とそれを機能的に進める体制づくりを確立した。また、2021年度には研究科(専攻)の「人材の養成・教育研究上の目的」を見直し、博士前期課程、後期課程ごとに策定し直した。2022年度にはディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、修士論文に対する各専攻のルーブリックの策定と運用を始めた。2023年度には、2022年度に不備を指摘された宗教学仏教学専攻の博士論文のルーブリックを策定し、実際の審査においてそれに基づく評価を行った。また、全7回の自己点検・自己評価委員会を開催し、うち5回で内部質保証会議での課題事項についての審議、改善案を作成した。以上から、研究科における内部質保証体制を構築している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度大学院要項』p.5, 8, 9, 11, 12, 16, 17 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf 、愛知学院大学 ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				
「愛知学院大学大学院文学研究科自己点検・自己評価委員会規定」				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)学位授与方針については、博士前期課程・後期課程ともに4専攻がそれぞれ「ディプロマ・ポリシー」として規定しており、課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明記している。『大学院要項』および大学HPにもそれらの内容を公表している。また、「愛知学院大学大学院 学位論文審査基準」を定め、4専攻の学位論文審査の基準を明記し公表している。さらに、修士論文では主査のほか、2名の学内副査が論文審査および口頭試問を行い評点を付け、各学生に対しルーブリックを作成している。博士論文については、予備審査、本審査の2段階審査を行い、主査と学内副査以外に学外からも副査を依頼している。博士論文の内容が博士の学位授与に適用ものであるか厳正に審査されており、ルーブリックによる評価も行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度大学院要項』p.5、pp.8-9「ディプロマ・ポリシー」、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf 、大学ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				
『2023年大学院要項』p.38「愛知学院大学大学院 学位論文審査基準」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録、文学研究科委員会議事録、ルーブリック				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)教育課程の編成・実施方針は『大学院要項』で明記している。「カリキュラム・ポリシー」には、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示したうえで大学ホームページに掲載している。				
(2)教育課程の編成・実施方針と学位授与方針に適切な連関をもつよう十分な配慮をし、その内容については『大学院要項』および大学ホームページ等で公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度大学院要項』pp.11-12、p.16-17「カリキュラム・ポリシー」、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
『2023年大学院要項』pp.20-22「愛知学院大学大学院 研究指導計画書」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
大学ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)教育課程の編成・実施方針と教育課程の連関については十分配慮し、整合性は取れている。この点については、文学研究科の自己点検・自己評価委員会及び文学研究科委員会にて定期的に確認している。				
(2)教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性へは十分な配慮をしている。必修、選択等の授業科目の位置づけについては各専攻内で確認するとともに、研究科全体においても自己点検・自己評価委員会を通じて定期的な見直しの機会をもっている。				
(3)個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を十分ふまえて決められている。個々のシラバスは各専攻の会議、及び研究科の自己点検・自己評価委員会においてその適切性を確認している。				
(4)大学院担当教員は、コースワーク(講義)とリサーチワーク(演習)を適切に組み合わせた教育への配慮を十分行いつつ実施している。修士課程では、専修科目(講義、演習)、専修科目以外の科目(講義、特殊研究)を1、2年次に適切に配当している。また博士課程では専修科目(研究指導)と選択科目をバランスよく配している。いずれの課程についても『大学院要項』にその履修方法を掲載している。				
(5)演習授業及び講義科目とも受講者の規模は数名程度である。少人数教育の利点を生かして、教員は学生の学習の進捗状況を把握し、加えて教員相互で各学生に関する情報を交換しあい指導を行っている。これらの教育活動を通じて、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成を適切に行っている。その過程はポートフォリオ(個人学修調査票)に記録している。また、宗教学仏教学専攻では、大学院研修会を夏・冬の年2回開催し、本研究科に在籍する大学院生および本研究科の修了生など関係者による研究発表会を実施し、学外研究者、関連諸学会にも広く開催を広報している。学外研究者も聴講する場で研究発表を行うことにより、研究者としての自覚や自立を促す機会となっている。新型コロナウイルス感染症感染拡大以降は、オンライン会議ツールを使用してオンラインにて実施している。歴史学専攻の大学院研修会では、2023年度、コロナ前と同じ対面開催が復活し、2教室40名が参加し盛況となった。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年大学院要項』pp.53-60、「授業科目・担当教員・履修方法」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-j.pdf				
『2023年大学院要覧』pp.3-7、「文学研究科」				
ポートフォリオ(個人学修調査票)				
文学研究科4専攻 大学院FD研修会開催案内、研究発表レジュメ、オンライン録画、「2023年度文学研究科FD研究会報告書」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 (教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等)	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 入学者には特修科目の中から専修科目1科目を選定し、2年間でその12単位(講義4・演習8)を必修することで専門性を高めさせている。本研究科全体で開設している特修科目は34科目で、このうち30科目は開講しており、当研究科で学ぶことのできる研究分野のほとんどが網羅されている。なお、授業時間外に必要な学習を促進するため、シラバスに授業時間外の学修について記載している。 (2) シラバスの内容については、授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示のすべてを適切に表記することを担当教員に指示している。また毎年度末には、担当者が執筆したシラバスを各専攻の自己点検・自己評価委員が記載内容が適切かどうかをチェックし、修正が必要な場合には担当教員に依頼している。 (3) 前期課程においては、専修科目1科目を選択することで、同一指導教員から研究上の関心や個性に合わせた演習指導を2年間受け、それを通して研究を進める上で必要な基礎的知識や態度、課題設定、先行研究の整理、資料の収集・読解法、分析の記述の仕方等を系統的に学ばせるようにしている。それに加えて、コースワークとして前期課程担当教員による講義を大学院生が各自の研究関心に沿って受講し、研究方法に関するヒントや具体的な研究成果を積極的に学ぶことができるよう配慮している。 (4) 従来も大学院指導教員の指導のもと、院生には研究指導計画に沿った教育を行ってきた。2018年度には研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)を作成し、2019年度より明文化したスケジュールに沿った研究指導を実施している。また半期ごとに院生各人が作成したポートフォリオ(個人学習調査票)を持参させ、個々の大学院生の研究計画を把握し、その内容に基づいた研究指導を行っている。院生および指導教員が、当初の計画から現状どのような学修が足りていないか、今後何を重点的に学修していけばよいか可視化できるしくみとなっている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年大学院要項』pp.20-22「愛知学院大学大学院 研究指導計画書」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
ポートフォリオ(個人学修調査票)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	A
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 単位認定に関しては、単位制度の趣旨にもとづき適切に行われている。具体的な評価方法は、すべての講義・演習科目のシラバスに評価方法記載欄が設けられており、そこに明記されている。2016年度以降、自己点検・自己評価委員によってその適切性をチェックして、具体的な評価方法が記載されているかを確認している。				
(2) 各教員は自ら設定し、シラバスに明記した評価方法によって成績判定を行っている。評価基準としては、筆記試験、授業参加度(討論、質疑応答への熱意)、課題の提出、レポート作成、研究報告などである。各教員は、概ねこれら基準の2つ以上を用いて成績評価の判定材料としている。成績の評価方法・評価基準については、各授業担当教員のシラバスの中の「大学院生に対する評価方法」欄に明示している。				
(3) 修了要件は、『大学院要項』『ディプロマ・ポリシー』に明示している。				
(4) 学位論文審査基準については『大学院要項』『愛知学院大学大学院 学位論文審査基準』に明示するとともに、大学院生にはその内容について十分な周知をしている。				
(5) 学位論文審査基準については『大学院要項』に明示するとともに、大学院生にはその内容について十分な周知をし、適切に運用している。また、2022年度以降は4専攻すべてで博士前期課程のルーブリックを作成・活用し、それに従ってより詳細な基準で評価をしている。博士後期課程についても、2023年度に博士学位論文の審査があった宗教学仏教学専攻、歴史学専攻では、各専攻のルーブリックによってより詳細な審査をおこなった。				
(6) 前期課程・後期課程ともに課程修了の判定において、全成績を文学研究科委員会で開示し、修了審査を経た上で、最終的には全学的な大学院会議での審議、承認を受けて学位授与を決定している。これにより評価における公明性と適切性を保っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度大学院要項』『ディプロマ・ポリシー』p.5 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
『2023年度大学院要項』『カリキュラム・ポリシー』pp.16-17 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
『2023年度大学院要項』『愛知学院大学大学院 学位論文審査基準』p.38 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf				
「愛知学院大学学位規則」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/rules/rules-b.pdf				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学位授与方針に示した学習成果を測定するために、文学研究科ではおもに講義・演習を通じての成績評価、及び論文指導をしてきた。2018年度には、それをより有効に機能させるための指標として、修士論文審査票、学習成果を記録するポートフォリオの活用を追加することを検討した。2019年度より、これらのフォーマットの活用を実施しはじめている。以上をまとめた多角的な指標設定(アセスメント・プランに該当)はつぎのとおりである。入学時(入学試験、面接、推薦書、課題エッセイ、留学生は日本語能力試験証明書)、在学時(GPA、修得単位数、退学率、休学率、ポートフォリオ)、卒業時(学位授与数、修士論文審査票(修士論文ルーブリック)、修了生へのアンケート調査)である。				
(2) 博士課程前期の学生については、指導教員によるきめ細かな指導のもと、学習成果を的確に把握してきた。2019年度の自己点検・自己評価委員会において、その成果の把握を測定する方法についての議論がされ、各専攻による修士論文審査票が作成された。この審査票の開示により、大学院生の論文での重要課題が明確になり、高い学習成果が担保されている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「修士論文審査票(修士論文ルーブリック)」				
ポートフォリオ(個人調査票)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 少人数による講義、演習科目において、授業での質疑、レポート・課題へのコメントを通じて、学習成果を測定してきた。また学生の授業アンケートを踏まえて、講義・演習の内容、方法の適切性についての確認をしてきた。2019年度からは「修士論文審査票」(修士論文ルーブリック)における測定基準を明記し、それに基づく年度ごとでの点検・評価も実施している。				
(2) 4専攻から2名ずつ選出された自己点検・自己評価委員による委員会は通例月1回程度、文学研究科委員会に先立ち開催している。そこで審議された事項をふまえ、教育課程及びその内容、方法の適切性について改善・向上に向けた取り組みを継続している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「修士論文審査票(修士論文ルーブリック)」				
ポートフォリオ(個人調査票)				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 学生の受け入れ方針については、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーを適切に設定し、大学ホームページにて公表するとともに、『大学院要項』に掲載している。受け入れ方針は各専攻で若干の相違はあるが、学位授与方針や教育実施方針は基本的に共通している。その方針に見合う学力や能力を持つ研究意欲に富んだ学生を受け入れることが基本である。 (2) 受け入れ方針の概要として、宗教学仏教学専攻では、建学の精神を身につけ、仏教学・禅学・宗教学の研究に関心を持ち、現代社会に貢献できる人材を求める。歴史学専攻は世界史的視野を持ち教育界・文化機関等で活躍できる人材を求める。英語圏文化専攻は、英語圏あるいは環太平洋地域における英語圏文化を幅広い視野から深く探求し、研究者として自立する意欲のある人、教育者としてあるいは国際的な職業人として社会に貢献する意欲のある人を求める。日本文化専攻は、一般教養と日本文化に関する基礎的な知識を習得し、明確な課題を持ち、かつ日本文化の多面的かつ深い学修に意欲を有する人を求めるものである。以上のような求める学生像とともに、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像についての内容も踏まえたアドミッション・ポリシーを設定している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2023年度大学院要項』p.1-19、 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/life/life-i.pdf 、ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/				
「アドミッション・ポリシー」『2024年度学生募集要項』p.1、ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission02.pdf				
「大学院入試情報」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/examination/graduate/				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

文学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) アドミッション・ポリシーにもとづき、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しており、随時、それらが適切であることを点検している。具体的には、学生の募集は本学大学院全体の入学者選抜試験制度に基づいて実施しており、募集方法は、大学院ホームページ及び『学生募集要項』などの印刷物、公共交通機関等における広告、春、夏、冬の年3回実施する進学者相談会、学部ゼミ生に対する指導教員の案内を中心として展開している。				
(2) 大学院委員会において合格基準の確認・見直しを行い、入学試験実施後に文学研究科委員会において判定を行い、最終的には大学院委員会で研究科委員会の判定内容を審議している。				
(3) 入試は推薦・特別・社会人・一般入試の4種類を設けて春季及び秋季に行い、(2)で述べた適切な体制のもと、公正な入学者選抜を実施している。				
(4) 入学を希望する者への合理的な配慮は不可欠なものと理解し、公正な入学選抜を実施している。具体的には、社会人の入学者選抜における外国語免除の入試の実施、傷病・障害等の申し出があった際の配慮、留学生の入学者選抜における日本語能力の客観的な審査等を行っている。その結果については、文学研究科委員会での審議、承認を経て、全学の大学院委員会に報告し、最終的な承認を得ている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
『2024年度学生募集要項』、ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission02.pdf				
「大学院入試情報」ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/examination/graduate/				
「外国人留学生の入学に関する規程」 https://www.agu.ac.jp/pdf/graduate/rules/rules-h.pdf				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

文学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 文学研究科の入学定員は、博士前期課程では、専攻10名ずつの合計40名、収容定員は4専攻1、2年生全体で80名、後期課程は4専攻合計3学年全体で57名である。2023年5月1日時点の在籍大学院生数は前期課程では、1・2年合計で23名(収容定員充足率は29%)、後期課程では、3年合計で3名(収容定員充足率4%)で、うち1名は博士論文執筆のため在学延長という形で在籍する院生である。後期課程は4専攻すべてにおいて低迷していると言わざるを得ない。収容定員に対する在籍学生数の未充足状況の改善に関しては、入学希望者の確保のために、入試センターが年3回実施している進学説明会での懇切丁寧な説明、学部学生や社会人への勧誘などを意識的に行っている。他方、2023年度は、5回の自己点検・自己評価委員会で文学研究科全体として入学定員の削減について具体的に検討し、2024年1月23日開催の内部質保証推進会議にてその結果を報告している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学大学院 収容定員充足率」 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2023.pdf				
「愛知学院大学大学院 課題改善指示書兼報告書」(課題No.27)改善報告書				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録(第1,2,3,4,6回)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学研究科の自己点検・自己評価委員会において、学生の受け入れの適切性をアドミッション・ポリシーの適切性、入学定員及び収容定員の適切性等の観点から点検している。ただし、文学研究科への進学率は複数の専攻で低迷状態が続いているため、学生の収容定員の削減も視野に入れながら、状況を改善する方法を検討している。文学研究科全体としてどのように対応するかが現在の課題である。				
(2) 従来、入学者の受け入れにおいて低迷状態が続いていた英語圏文化専攻、日本文化専攻では、さまざまな方策が検討されてきた。それもあり、2023年度は収容定員充足率が英語圏文化専攻で20%、日本文化専攻で15%と僅かながら改善の兆しもある。とはいえ、今後劇的な改善は見込めない現実もあり、2023年度内部質保証推進会議に提出した学生の収容定員の削減案も具体化していく必要がある。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学大学院 収容定員充足率」 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2023.pdf				
「愛知学院大学大学院 課題改善指示書兼報告書」(課題No.27)改善報告書				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録(第1,2,3,4,6回)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
B

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 文学研究科では2019年度に、「文学研究科 教員組織の編制方針」を策定し、その方針に基づき、適切な教員組織の編制がなされるよう努めている。また定期的に自己点検・自己評価委員会を開き(2023年度は7回開催)、各専攻より教員組織の編制に関する中・長期的な計画案を共有している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「文学研究科 教員組織の編制方針」				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 研究科教員数は設置基準が求める定数を満たすように、自己点検・自己評価委員会および文学研究科委員会で検討・確認する作業を繰り返しており、適切に管理されている。前期課程の講義、演習指導、後期課程の研究特講、研究指導という授業科目の性格に応じて4専攻共通の担当教員の資格基準を設けており、4専攻が教員の授業担当人事における資格審査の客観性を保つのに役立っている。教員資質の向上については、人事の都度、博士学位の取得や研究業績の積み上げ、単著の刊行などを教員に要求している。教育方法の向上については、学生への授業アンケートの実施、結果の提示を通して授業改善を図っている。FDの組織的实施については、2017年度以降、研究科独自の研修会を定期的に開催している。2023年度には、2024年度に向け、博士前期課程において、講義または演習(あるいはその両方)を担当する教員の人事を7件実施した。 (2) 教員組織の編制方針にもとづき、各専攻に欠員が生じた場合には、分野を同じくする専任教員を募集・採用することによって分野ごとのバランスを維持するとともに、その時点における各専攻内の教員の年齢、性別のバランスも考慮して人選を行っている。また、現有の専任教員に関しては、適宜昇任を行うことで、職位と年齢のバランスも適切に保っている。 (3) 2023年度、各専攻の自己点検・自己評価委員が取りまとめた教員・教員組織に関する現状と課題はつぎのとおりである。宗教学仏教学専攻において、博士前期課程の演習指導教員の年齢構成は、30代が1人、40代が1人、50代が2人、70代が2人である。博士前期課程の講義担当者は、男女比でみると、5:1、博士後期課程の研究指導では担当3人全員が男性であり、性別の偏りが見られる。専攻は、①仏教学仏教史学研究、②禅学禅思想史学研究、③宗教学宗教史学研究の3分野に分れている。博士前期課程において①に2人、②に1人、③に3人の教員、博士後期課程において①2人、③に3人であるが、②は0人である。2023年度に、2024年度から②の教員を2名増やす人事を行い承認された。歴史学専攻においては、研究科専任教員は11人であり、年齢構成では70代が1人、60代が3人、50代が4人、40代2人、30代が1人であり、年齢のバランスは良い。専任教員11人中、教授8人、准教授3人で、女性教員は3人である。前期課程授業担当者は11人、後期課程研究指導担当者は6人(内、女性1人)となっている。2024年度は、40代1人、30代1人で博士前期課程の演習担当が増える。英語圏文化専攻においては、博士前期課程の教員組織の年齢構成は、50代5人、60代5人、博士後期課程研究指導担当者は、50代1人、60代3人となっている。男女比については、博士前期課程は男性5:女性5とバランスが取れている。後期課程研究指導は男性3:女性1となっている。分野別の人事配置をみると、①英語学・英語教育学研究分野4人、②アメリカ研究分野2人、③イギリス研究分野2人、④広域英語圏研究分野1人、⑤共通領域研究分野1人となっている。担当者増が望まれていた広域英語圏の担当者には2024年度、30代が1名加わる予定である。日本文化専攻では、年齢構成について、前期課程の講義担当者は、30代が2人、50代が2人、60代が5人である。60代が増加している。男女比について、前期課程の講義担当者は、5:4、後期課程の研究指導担当者は2:2であり、理想的な状況である。日本文化専攻は、①日本語日本文学研究分野、②日本文化研究分野、③各種領域研究分野の3分野から構成されているが、各分野につき、①2人、②3人、③4名の教員が配置され均衡が取れており、問題のない状況である。日本文化専攻は、前期課程、後期課程とも1人の教員が複数科目を担当することではなく、原則的に1教員1科目の担当割り当てである。前期課程担当者と前期・後期課程担当者では後者がコマ増とはなるが、基本的に負担は均等であり問題のない状況である。 (4)				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」				
「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教員の募集・採用、また准教授・専任講師を教授に昇格させることは学部の審議事項であり、文学研究科独自での教員の募集・採用は行っていない。しかしながら、研究科における講義科目の担当及び博士前期課程の演習・博士後期課程の研究指導の担当になる時には、「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」に基づいて教育歴・研究業績審査を行っている。それに加えて、文学研究科では「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」を定め、前期課程演習担当者は准教授及び教授とし、准教授での演習担当者は、博士学位を取得し、各専攻委員によって適切と認められる者と規定し、後期課程研究指導の担当者は、教授で博士学位を取得し、前期課程で演習担当2年以上の者、また単著があることを基本的条件としている。				
(2) 文学研究科の研究領域の分野は文学部のカリキュラムの構成とも密接に連動していて、新しい教員を採用する場合には、欠員が出た分野を補充するという形をとることを基本としている。研究科の授業科目担当人事は、大学院委員会委員及び研究科自己点検・自己評価委員会における予備審査を経たのち、研究科委員会に提案、審査報告の承認という厳格な手続きを経たうえで決定している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」				
「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」				
文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 研究科の授業担当教員は学部の授業も担当している。その関係上、学部で実施されているFD研究会でのより良い授業実施のための問題検討・提案は、大学院教育における資質向上の対策としても機能している。これに加え、大学院各専攻で独自のFD研究会(FD研修会)を開いている。毎年各専攻で年に1回以上実施しており、在学する院生の研究発表や修士論文(博士論文)の構想発表、提出後の執筆内容に関する研究発表のほか、所属教員の研究発表などが主な内容である。宗教学仏教学専攻では年2回、夏と冬に大学院FD研修会を開催し、オンラインを活用して専攻のOB／OG、本学非常勤講師や学外の研究者にも開いた研究会としている。				
(2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等は、年度末に刊行される『愛知学院大学文学部紀要』に掲載されている。教員の教育活動、研究活動、社会活動等に対する検証は、授業担当人事(前期課程講義・演習及び後期課程研究指導)の提案時に行っており、これを満たすことなく、教員の新たな担当人事を起すことはできない。また、毎年度末に大学院生に対して授業アンケートを実施し、その結果を各授業担当教員に提示して、より良い教育実施のための努力を促している。				

基準6. 教員・教員組織

組織名

文学研究科

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

2023年度文学研究科FD研究会(研修会)報告書

愛知学院大学文学部『文学部紀要』『研究活動』ISSN:02858940

愛知学院大学大学院文学研究科文研会〔編〕『愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要』ISSN:13427806

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)教員組織は『大学院要項』に示され担当資格が学則に示されているが、文学研究科では学則に準拠しつつも、研究科を構成する教員の資格を准教授以上とし、前期課程演習指導を准教授が担当する場合は学位を有する者としている。また、後期課程研究指導担当者は教授で学位を有し、前期課程において2年以上の演習指導を担当し、かつ専門分野における単著を刊行している者と厳格に申し合わせている。このことは「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」に定めている。教員組織の適切性(教員数、配置、昇任等)については、上記の基準に照らしながら、文学研究科自己点検・自己評価委員会において点検・評価し、必要な改善点については文学研究科委員会にて審議のうえ実施する体制となっている。

(2)研究科において前期課程の講義担当、演習担当及び後期課程の研究指導担当などの人事の都度、教員に対して学位の取得、新たな研究論文・著書の刊行などの業績の積み上げを求めている。また、前期課程演習指導及び後期課程研究指導担当人事では、学位の取得、単著の刊行、授業担当実績に関する基準を設けて審査・決定しており、これが教員の資質向上の努力につながっている。文学研究科は異なる性格を持つ4専攻から構成されているために、教員の任用基準や研究業績の評価方法などが他専攻の教員には理解しづらいことがある。上述の研究科全専攻による任用基準の形式的統一に関する申し合わせは、教員の資格審査における専攻別の評価の相違を低減することに効果的に機能している。そのうえで、教員組織の適切性(教員数、配置、昇任等)の点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「文学研究科の募集・採用、昇任に関する規定・内規」

「愛知学院大学大学院教員資格基準内規についての確認事項」

文学研究科「自己点検・自己評価委員会」議事録

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教学仏教学専攻では自治体の生涯学習講座等に大学院担当教員が出講している。歴史学専攻では地域交流の一環として毎年学外の人を対象とした「土曜セミナー」を開催している(2023年度で第8回目、会場は日進キャンパス)。また、全学的に行われている公開講座の講師として文学研究科からも教員が出講している(2023年度は日本文化専攻の蛸島直教授)。また、英語圏文化専攻では修士課程に在籍する留学生が、学部との交換留学生と交流したり留学生の先輩としてさまざまなアドバイスをする機会を設けるなど本学の交際交流を活性化させるような取り組みを行っている。				
(2) 宗教学仏教学専攻では学外向けのオープンカレッジ、朝日カルチャーセンター名古屋に大学院担当教員が出講している。歴史学専攻の「土曜セミナー」も教員の研究成果を学外や地域に開く重要な機会となっている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
宗教学仏教学専攻 オープンカレッジ「現代に生きる仏教」 https://www.agu.ac.jp/local/extension/ 、Instagram agu.syukyo				
歴史学専攻「土曜セミナー 歴史学の再生」 https://www.agu.ac.jp/news/file/rekishiseminarpdf.pdf 、Instagram agurekishi				
愛知学院大学 公開講座 https://www.agu.ac.jp/local/extension/ 、英語英米Instagram aichigakuin_eigoeibei				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学研究科における自己点検・自己評価委員会では大学院教育全般に関わる点検・評価をしている。研究科の社会連携・社会貢献についての適切性についても確認している。また、各教員による社会連携・社会貢献については、文学部紀要の中の「研究活動」の項目に報告されている。				
(2) 従来より行われている専攻ごとの取り組みをより一層充実させるとともに、今後は研究科全体としての企画を立案・実施し、グローバル社会および地域連携に対応した教育を推進させていく必要がある。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部『文学部紀要』『研究活動』ISSN:02858940				
2023年度文学研究科(専攻毎)中期目標計画書				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②	宗教学仏教学専攻は、本学の設立母体である曹洞宗の教師養成機関、並びに教化機関としての役割を担っている。それにもとづき、同専攻を修了した者は無試験で曹洞宗一等教師補に補任されることが曹洞宗の教師分限規程により定められている。この役割を担い得るのは本学大学院の宗教学仏教学専攻のほかには駒澤大学大学院仏教学専攻のみであり、曹洞宗門並びに仏教界から大きな期待を寄せられている。
②	歴史学専攻においては、歴史学科教員も含めて2015年度から秋に土曜セミナーを開催し、研究科の教育活動を紹介し、教員それぞれの研究成果の一端を公開し、生涯教育の実践に努力している。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
曹洞宗務局文書課編『曹洞宗宗制』僧侶教師分限規程 p.47	
歴史学専攻「土曜セミナー 歴史学の再生」 https://www.agu.ac.jp/news/file/rekishiseminarpdf.pdf 、インスタグラム agurekishi	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A